

令和3年度 第2回教育課程研修会 報告書

1. 目的 高等学校新学習指導要領への適正かつスムーズな移行を図るため、観点別学習状況の評価について理解を深め、留意点と事例を学ぶ。
2. 日時 令和3年10月22日(金) 午後1時20分～
3. 会場 静岡県私学会館 5階大会議室 (一部オンライン参加)
4. 対象者 47名 (教務部長、教務主任等教務分掌の責任者及びこれに準じる教務担当教諭等)
5. 日程
 - 13:20～ 開会式
部会長挨拶 静岡学園中学校・高等学校
校長 鈴木 啓之 先生
 - 13:30～ 講演「新学習指導要領・2022年度に向けた検討ポイント ～観点別評価の導入に向けて～」
講師 株式会社ベネッセコーポレーション教育情報センター長 谷本 祐一郎 様
 - 15:00～ 連絡事項
閉会
6. 内容
 - (1)部会長挨拶
 - ・研修会実施の経緯と講師紹介
 - (2)講演
 - ①新課程の目的：予測不可能な社会に必要な資質・能力の育成
 - ・目的を達成するための手段
 1. 学力観の転換、キャリア教育重視
 2. 探究を重視した教科・科目等の創設
 3. 主体的・対話的で深い学び、学習評価の充実
 - ・新教育課程の編成に向けての検討ポイントでもっとも大事なものは、立ち返られる指標となる「育てたい生徒像」「育てたい資質・能力」を作っておくこと
 - ・「情報Ⅰ」と数学の連携、総合的な探究の時間との連携を考えると1年次履修が妥当
 - ②観点別評価
 - 1, 観点別評価に向けて
 - ・2022年度から指導要録に3観点での観点別評価を記載
 - ・先生が生徒を評価するのではなく、評価を通じて生徒を前向きにしたり教員の授業改善に繋がられたりするために、教員の評価観を変えていくことが必要
 - ・他の人と比較する「左右の比較」は残しつつも、一個人を過去と現在で比較する「前後の比較」
 - ・生徒の「全体」の力をテストと平常点で相対的に評価した今までに対し、3つの資質・能力(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度)について到達度に応じて多様な手法で評価

2. 「知識・技能」の評価

- ・年号、単語などの単なる知識の習得にとどまらず、意味理解を深め、文脈を持って語ることのできる知識、すなわち概念的な理解の習得も「知識・技能」に入ってくる。

3. 「思考・判断・表現」の評価

- ・3観点の内、もっとも多様な評価手法の工夫が求められている
- ・学校事例では、「身の回りに履修する内容が使われている部分を探してみよう」というレポートの紹介、公式を学ぶ前に、自分の生活とどう関わっているのかを感じさせる機会を設けている授業の紹介がある

4. 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ・挙手の回数など、形式的態度のみを評価することは適当ではない
- ・①粘り強い取り組み、②自らの学習を調整しようとする力の2つの側面で評価
- ・生徒が自ら評価する「自己評価」を積極的に活用
- ・ワンペーパーポートフォリオで一連の流れを通した気づきを蓄積し、振り返る仕組みをつくる事例もある
- ・ペーパーテストによる評価に頼るだけでなく、パフォーマンスによる評価、観察による評価、ポートフォリオによる評価、ループブックによる評価といったように、評価の手法を多く準備し、場面に応じた評価をすること

③学校事例～観点別評価～

1. 事例で示すポイント

- ①今の取り組みを生かしながらどのように評価すればよいのか
- ②観点別評価と評定のひもづけについて、運用しやすい形でどのように設計すればよいのか

2. よくある質問について

- ・自己評価を評価・評定に入れるのかという質問があるが、特に「主体的に学ぶ態度」については生徒の自己評価を取り入れている学校が多い
- ・集団での評定平均が下がる等の質問があるが、そもそも他人と比べる評価ではなく集団での平均を考える必要はない。観点別評価がB B Bで4に設定しようという学校もあり、明確な規定はないのではないかな。

3. 取組事例～①今の取り組みを生かしながらどのように評価すればよいのかについて～

- ・どの学校も実践を通じて、軌道修正している。まずは校内テストの改善、どこかの単元で振り返りをやってみるなど、できることからチャレンジしていったらどうか。

《何を評価するか＝どのような力を育成するかの明確化ができていない学校》

【青森県立青森高校】

- ・学校として育てたい資質・能力を、教科で育てたい資質・能力として明確化できている
- ・問題に観点をタグ付けする。タグ付けのタイミングについては試験時か試験後か検討する必要あり

【広島県立呉三津田高校】

- ・学校として育てたい資質・能力を、各教科で言うとなんという力になるかを表現

- ・育む力を共有しているので、教科科目を超えて問題の作問検討ができる

【秋田県立湯沢高校】

- ・ミドルリーダーの教員が牽引して作成
- ・学校として育てたい資質・能力のすべてを、すべての教科・科目に入れず、教科横断で培っていく

《「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の評価》

【青森県立青森高校】

- ・現状の校内テスト問題を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」に分類
- ・「思考力・判断力・表現力」はテスト以外でも、ループリックによる自己評価シートを用いて評価

《「主体的に学習に取り組む態度」》

【大阪府立鳳高校】

- ・評価するためのワークシートは、単元の最初、途中、最後の考えが1枚にまとまることで成長を感じられるようにしている
- ・評価の理由を聞くことで、生徒が自分の評価の妥当性を考えられる

【静岡県立御殿場高校】

- ・単元終わりのまとめレポート
- ・先生が生徒を評価する点など、取り組みやすい
- ・Cがついた生徒にループリックをもとに振り返るように声かけし、次の学びにつながるようにしている

【茨城県立波崎柳川高校】

- ・毎授業、2行の振り返り
- ・定期テストは今年度より廃止

【県立A高校】

- ・振り返りシートを用い、評価は書いていけば（1～3の内の）2というシンプルな基準にすることで評価者の負担を小さくしている

4. ②観点別評価と評定のひもづけについて、運用しやすい形でどのように設計すればよいのかについて

《観点別評価それぞれの総括的評価を行う2つのパターン事例》

【パターン①】多いものを採用する：数が多いものを採用

- ・AABであればA
- ・AAAもAACも同じ評価になる

【パターン②】評点化

- ・「A=◎点」「B=●点」のように配点して観点ごとに平均点を出し、「知識・技能について◎点以上なら総合A」「思考判断表現について●点以下ならB」のように設計

《観点別総括的評価の最終的な評定へのひもづけについて》

- 【（3観点の重みづけ無し）パターン①】合計点
- 【（3観点の重みづけ無し）パターン②】平均点

【(3観点の重みづけ無し)パターン③】ABCの組み合わせで算出

【(3観点のうち、一部の観点到重みづけ)パターン④】ABCの組み合わせで算出

【(3観点のうち、一部の観点到重みづけ)パターン⑤】合計点

④まとめ

- ・ 4割近くの学校が校内テストの改革に着手している
- ・ 評価から評定へのひもづけについては、思考力・判断力・表現力に重みづけをした評点化方式で検討したいと思っている学校が圧倒的に多い
- ・ 3観点到軽重の差をつける場合、なぜそうなのか根拠をしっかりと説明できるようにしておくことが大事
- ・ これならできるのでは、というところからスタートするとよいのではないか

報告者 副部会長 静岡学園中学校・高等学校教諭 坂本 裕之